

人と産業をつなぐ【道の駅】の提案

～産業振興と担い手確保～



神奈川県綾瀬市 見上 司

1. はじめに

綾瀬市は、神奈川県中央部に位置し、東京から車で1時間、横浜から約30分と比較的アクセスも良く、東京都内も通勤通学圏内であり、ベッドタウン的に発展してきたまちである。

一方で、市民の生活の拠点となる鉄道駅が市内に存在せず、市内を通る東名高速道路へのアクセスもできなかったこと、観光地もなかったこと、ベッドタウン的に発展したことから特徴的な市の顔（イメージ）がなく、神奈川県内の近隣市と比べても存在感は薄い。

本レポートでは、市の2027年度にオープン予定の「道の駅」をテーマに、当市の現状や将来的な課題を想定した上で、当市ならではの存在感を持つ「道の駅」の提言をした。

2. 綾瀬市の概要

(1) 概要

綾瀬市は神奈川県のほぼ真ん中に位置し、横浜へは約20km、東京中心部へは約40kmの首都圏域にある。西に大山・丹沢連峰、富士山を望むとともに、カワセミやアユ、ホテルが見られるなど、都心部からさほど離れていない土地でありながら、市の中心部には広大な畑が広がる自然豊かなまちである。また、行政面積の18%弱を、連合軍司令官ダグラス・マッカーサー元帥が降り立った厚木基地（厚木海軍飛行場）が占めている。

2021年3月31日には新たな玄関口「綾瀬スマートインターチェンジ」が開通し、集客性のある商業施設の誘致のほか、道の駅の整備など、にぎわいのある地域経済の活性化に向けて取り組んでいる。「活力と魅力に満ちた綾瀬」の実現に取り組み、将来都市像である。「緑と文化が薫るふれあいのまちあやせ」を目指している。

(2) 綾瀬市の人口動態

本市の人口は83,913人（2020年国勢調査）で、神奈川県内の33市町村のうち16番目となっており、これまで緩やかに人口増を続けてきたが、2021年をピークに減少に転じ

図1 神奈川県図



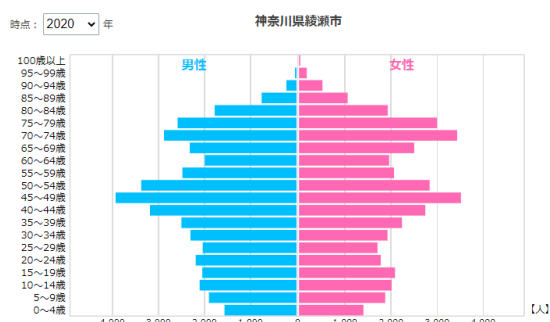
出典 Map It マップイット (c)

た。2040 年にはさらに 5,000 人近くが減少し、人口が約 76,000 人になると見込まれている。

年齢別の人口比率は、今後も少子高齢化が続くと見込まれ、2030 年 12 年には 0～14 歳人口比率は 11.1%に低下する一方、65 歳以上人口比率は 29.1%にまで上昇するものと推計されている。特に 75 歳以上の人口比率は、19.3%となり、65 歳以上の高齢者 3 人に 2 人、総人口の 5 人に 1 人が 75 歳以上となる。

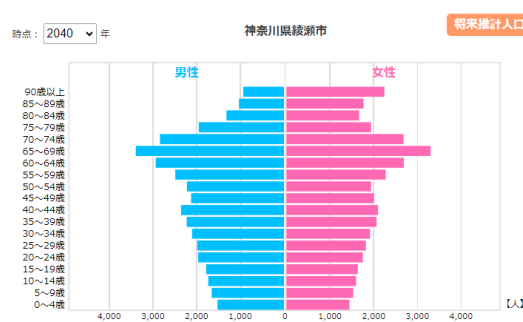
人口ピラミッドを比較すると、人口が多い団塊の世代及び団塊ジュニア世代が 2040 年にはそれぞれ 90 歳以上と 60 歳代後半となり、高齢化が激化する一方、少子化の影響から若年層の人口が年々減少することで、高齢者と高齢者を支える現役世代のバランスはさらに悪化していくことが想定される。(2015 年国勢調査)

図 2 2020 年人口ピラミッド



出典 統計ダッシュボード

図 3 2040 年人口ピラミッド



出典 統計ダッシュボード

(3) 綾瀬市の交通

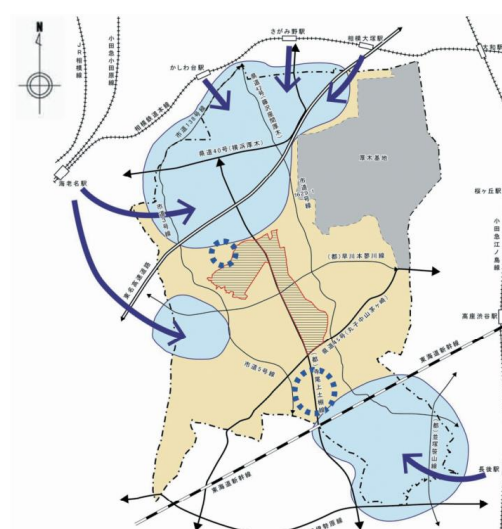
主要な幹線道路は、県道が 3 路線と東名高速道路が通っている。

市内に鉄道駅はないため、バス等によって隣接する海老名市、大和市、藤沢市を通る小田急小田原線、小田急江ノ島線、相鉄本線、JR 相模線等の駅を利用することで、横浜及び東京方面等へ概ね 30 分～1 時間程度で連絡アクセスが可能となっている。

市内に鉄道駅がないことから、近隣市の鉄道駅に近い市域外縁部から市街化が進んだ。そのため、市のほぼ中央に位置する市役所周辺が空洞化したまま、市街地が分散している状況に陥ることとなった。

一方で、市中央部近辺において計画的な市街地整備を進めてきたことで、市の中央部において本市の核となる中心拠点の形成が進行している。また、2021 年 3 月に東名高速道路綾瀬スマート

図 4 市街地形成の経緯



出典 あやせ都市マスタープラン

インターチェンジ（以下「スマート IC」）に開通したことで、東京都心部へ車で 1 時間以内と利便性が上がり、市の玄関口として交通の要衝となっている。

（４）綾瀬市の産業

綾瀬市の産業は、高い技術力やノウハウを持つ製造業事業所が集積する「ものづくりのまち」であるとともに、都心部へのアクセスと平らな地形を活かしたブランド農産物を展開する農業のまちでもある。

収穫後 6 時間以内に店頭に並ぶ神奈川県のブランドにも登録された「菜速あやせコーン」のほか、レタスなどは「菜速」野菜として注目され、鮮度や品質が評価されるなど、さまざまな形で知名度も向上しつつある。

一方で、本市では生産年齢人口の減少や産業各分野での後継者不足など、働き手の確保が喫緊の課題となっており、産業の持続可能性の低下が懸念されている。

ア 製造業

1960 年代、京浜工業地帯における公害問題が深刻化したことを受け、市内に工業団地が造成され、自動車関連産業（金属製品・輸送機など）を主力とした、中小企業の集積が始まった。現在では自動車関連をはじめ、建設、医療、航空関係等、様々な中小企業が集積し、2022 年経済構造実態調査によると、政令指定都市の 3 市に次ぐ「384」の製造業を営む中小企業が立地し、全国 157 位の付加価値額を持つものづくりのまちである。

市内の事業所では、少量品、多品種、試作品など、日々、異なる規格の製品を造ることが多いほか、短納期や高い精度、品質を求められるため、小さい企業であってもこれらに対応するために培った高い技術力とノウハウを保持していることが特徴である。

最近はその技術力を活かし、工業製品だけでなく、調理器具や食器、雑貨などの一般消費者向けの製品を開発・販売することで下請けから脱却し、自社がメーカーになるといった新たな取り組みを行う企業も出てきている。

綾瀬市では 2021 年 3 月より、人口減少や少子高齢化が進む中であっても、持続的な成果・発展を目指すために「総合計画 2030」の基本構想に位置付けられている「あやせ工場プロジェクト」に基づき様々な中小企業支援施策等を展開し、市内企業における「稼ぐ力」を高め、市内企業の持続的な発展を図っている。次に施策の一部を紹介する。

（ア）あやせ工場オープンファクトリー

あやせ工場オープンファクトリーは、通常は公開していない町工場での機械の操作を通して、ものづくりの楽しさを体感し、市内企業の誇る技術や人に触れることで、市内企業の PR とものづくりへの興味喚起、将来の担い手確保のために開催されている工場見学イベントである。同イベントでは、プレス機や旋盤の操作、溶接体験の他、市内中小企業のレーシングチームカーの乗車体験やミニ四駆を活用した親子で参加するものづくりワークショップ等を開催している。

2019 年にスタートした同イベントは、年々参加企業数や来場者数が増加しており、第 5 回目となる 2023 年度は、4 日間で 59 の工場が公開され、延べ 3,990 人が来場する市内で

最も大きな産業イベントとなっている。

図 5 工場見学の様子



出典 筆者撮影

図 6 レーシングカーの乗車体験



出典 筆者撮影

(イ) あやせ^{こうしょうじゆく}工匠塾

あやせ工匠塾は、市内の若手技術者を対象に、市内の熟練技術者が講師となり、実技形式でこれまで培ってきた技術や“職人の勘どころ”を継承する 5 日間程度の研修プログラムである。競合となる同業他社の職人に対し、技術を公開しないことが一般的であるが、市内企業全体の技術力のボトムアップを図り、地域としての技能継承を進めるために、2017 年から実施している。研修項目は、溶接と板金の 2 つあり、いずれも座学と実技を織り交ぜたカリキュラムである。これまで述べ 49 社から 60 人が参加している。毎年開催される、市内の職人の技術力を競うあやせ技能五輪においても、工匠塾卒塾者が多く優勝している。

(ウ) あやせ工場スマートナビ

あやせ工場スマートナビは綾瀬市内に事業所がある企業（製造業）情報や市内のモノづくりに関するイベントなどの情報を集約したポータルサイトである。登録企業の情報・技術力・製品などを掲載のほか、市内で活躍する職人に焦点を当てたコラムなどを掲載することで、販路開拓や地域経済の活性化、担い手の確保、「ものづくりのまち あやせ」のブランディングを促進させている。2023 年 12 月時点で 187 社が掲載されている。

イ 農業

綾瀬市は、市内を流れる 3 河川による河岸段丘と平地によって形成され、比較的温暖な気候であることから、古くから農業が盛んな地域である。神奈川県ほぼ中央で都市近郊に位置するという経済的立地条件を備えていることも活かして、トウモロコシやブロッコリーなどの野菜類、野菜や湘南梨やブドウ、イチゴ等の果物類、豚や鶏の畜産を主体とする農業生産が展開されている。

かつては専業農家を中心であったが、1960 年代から急激に都市化が進展したことから、農業構造はその影響を受けて専業農家が激減し、兼業農家が増加した。兼業農家の増加により、農地の資産的保有傾向の増加、兼業農家の高齢化が進み、世代交代等を機に急速に農地の流動化が進む可能性が高まっている。

一方で、農業を取り巻く環境は都市化の進展、輸入農畜産物の増加、担い手の高齢化、

耕作放棄地の増加など大きく変化してきており、高収益性化や新たな担い手確保を目的に、農業が職業として選択し得る魅力とやりがいのあるものとなるよう、産地のブランディング、新規就農支援などを進めている。次に施策の一部を紹介する。

(ア) 親子ふれあい農業体験

親子ふれあい農業体験は、市内の農園で農作物（トウモロコシ・サツマイモ・ダイコン・キャベツなど）の種まきから管理・収穫までを1年間通して親子で体験する農業体験イベントである。農作物育成の難しさを学ぶこと、収穫の喜びを味わうことを目的としている。12月の収穫時には、育てた野菜を味わえる収穫祭を開催している。

(イ) 綾瀬市ふれあい農園

綾瀬市ふれあい農園は、家族や地域の人たちと触れ合いながら土に親しみ、収穫の喜びを体験できる貸し農園事業である。市民が農産物の栽培を通じて緑や土に親しみを持ち、農家とのふれあいの中から農業への理解を深めるとともに、地域コミュニティの場を提供することを目的としている。市内に7カ所のふれあい農園がり、35か月間の貸し出しを行っている。

3. 道の駅について

国土交通省「道の駅案内」によると、道の駅は次の(1)、(2)のように定義されている。

(1) 道の駅の概要

長距離ドライブが増え、女性や高齢者のドライバーが増加するなかで、道路交通の円滑な「ながれ」を支えるため、一般道路にも安心して自由に立ち寄り、利用できる快適な休憩のため「たまり」空間が求められている。また、人々の価値観の多様化により、個性的でおもしろい空間が望まれており、これら休憩施設では、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用し多様で個性豊かなサービスを提供することができる。

さらに、これらの休憩施設が個性豊かなにぎわいのある空間となることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待される。こうしたことを背景として、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」の3つの機能を併せ持つ休憩施設「道の駅」が誕生した。

(2) 道の駅の要件

表 1 道の駅の要件一覧

休憩機能	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が無料で24時間利用できる ・十分な容量を持った駐車場 ・清潔なトイレ（原則、洋式） ・子育て応援施設（ベビーコーナー等）
情報発信機能	道路及び地域に関する情報を提供（道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等）

地域連携機能	文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設
その他	施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化
登録者	市町村又は市町村に代わり得る公的な団体

出典国土交通省 HP をもとに筆者作成

(3) 道の駅の利用者

全国の「道の駅」の年間利用者数は2億人（2012年）を超え、売上げは2,100億円（同年）に達しており、利用目的は「食事・買い物」が最も多く、次に「休憩・トイレ」となっている。

表2 「道の駅」の利用目的

項目	回答数	構成比
休憩・トイレ	12,026	44.9%
食事・買物	23,328	46.0%
その「道の駅」にしかない施設の利用（入浴・体験等）	1,529	5.7%
その他	921	3.4%
合計	26,804	100.0%

出典 JAF「道の駅」に関するアンケート結果(2012年)

4. 関東圏の道の駅

2023年8月時点での全国における「道の駅」登録数は1,209駅であり、そのうち一都三県においては55駅となる。東京都1駅、神奈川県4駅、埼玉県20駅、千葉県30駅と埼玉県と千葉県に集中している。

神奈川県には、2025年7月にオープン予定の「道の駅湘南ちがさき」を含めると5つの道の駅が登録される予定で、綾瀬市の道の駅は東京から関西方面では最も近い道の駅となる。県内の5駅を見ると、いずれもドライブルートや観光地付近に位置しており、地場産品や郷土料理を販売している。

表3 神奈川県内の道の駅

	箱根峠	山北	清川	足柄・金太郎のふるさと	湘南ちがさき	綾瀬市
立地	箱根町	山北町	清川村	南足柄市	茅ヶ崎市	綾瀬市
時期	1995/5	1997/7	2015/11	2020/6	2025/7	2027
敷地面積	4,315 m ²	—	3,700 m ²	5,840 m ²	17,000 m ²	22,000 m ²
特徴	○箱根眺望 ○ドライブ	○ドライブ ○川魚料理	○ドライブ ○豚料理 ○工芸	○海産物 ○観光地周辺 ○交流施設 ○収穫体験	○ドライブ ○観光地周辺 ○オリジナルブランド	—

出典筆者作成

5. 綾瀬市の道の駅

(1) 目的及び経過

綾瀬スマートインターチェンジの開通（2021年3月）による交流人口の増加を最大限に活用するため、円滑な交通環境と人々のにぎわいの場を提供するとともに、地域経済を活性化させ、「綾瀬」の魅力を市内外に発信することを目的に登録するものであり、2016年度の地域振興施設等整備計画の策定を皮切りに事業が開始した。

(2) 事業予定地の概要

2027年度の開業、約22,000㎡を予定している。予定地は綾瀬市のほぼ中心地に位置しており、綾瀬スマートICから県道42号線を藤沢方面に1.5kmの農地跡にある。綾瀬市役所、大型商業施設の他、文化会館などが存在する中心市街地が再整備予定地と隣接している。候補地は①綾瀬スマートインターチェンジが接続する県道とのアクセスが容易なこと②南北方向の広域軸に位置付ける重点事業のエリアに該当すること、③農業振興をはじめ産業連携等の地域活性化に資する立地性や周辺環境を有すること、④拠点形成のための機能配置が可能な一団の敷地規模を有することを条件に選定された。

図5 道の駅事業予定地



出典 筆者作成

6. 道の駅の事例

(1) 道の駅 やちよ

道の駅 やちよは、千葉県八千代市の道の駅であり、施設内に併設された市内産の農産物等を販売する農産物直売所、市内酪農家による搾りたての牛乳で作るアイスクリームの販売、および千葉県の特産品を用いたレストラン等を有している。

また、農業体験等を通じて農業に対する理解や関心を深めること等を目的に、料理実習室と、サークル活動等で活用される研修室を備えるほか、各種イベントやバーベキュー、子供たちが遊ぶオープンスペースとなる芝生広場を有しており、体験を目的とした持った人に利用されている。

道の駅やちよでは、農業振興に資するため、市民等の農業に関する理解と関心を深めるとともに、農業者の経営意欲の増進並びに知識及び技術の向上を図っている。具体的には、稲作や畑作業を体験できる「農業体験」やイチゴ狩りや芋掘り等の「収穫体験」のほか、農産物加工の教室、講習会、研修や様々なイベント等を開催し、農業に触れる機会を作るだけでなく、市内農家との交流を図るため、一般の方向けの農業ボランティア養成講座を開催している。

(2) まちの駅・道の駅 アグリパークゆめすぎと

まちの駅・道の駅 アグリパークゆめすぎとは埼玉県杉戸町にある農業を通じて「人と人とのふれあいの場」を提供することを意識した道の駅である。10.2 ヘクタールの広大な敷地内には、農産物直売所や食堂あぐり亭、バーベキュー広場、農園など多彩な施設があり、家族や仲間を一日中楽しめる。味わう（直売所、食堂、食品加工所）、集う・ふれあう（芝生広場、イベント広場、池）、育てる（貸し農園、果樹園）、学ぶ（体験農園、育苗施設）の4つのコンセプトのもののもとに、人と農業の新しい創造を勧めるとともに、多くの地域の人々との交流を図っている。

(3) 道の駅 さかい

道の駅 さかいは茨城県境町であり、観光案内所、物産館、レストランなどがあり利根川の河川敷でのバーベキュー、セグウェイ体験も可能な施設である。

道の駅 さかいでは、道の駅では珍しい、他の地域のアンテナショップ「沖縄県国頭町公設市場」や地域の酒屋が経営するビール醸造所、米国の有名ステーキ店を有している。

また、道の駅 さかいを運営する株式会社さかいまちづくり公社は、同道の駅を境町の地方創生プロジェクト「S-Project」の一環として位置づけ、チャレンジキッチンやシェアオフィスを備えた企業者向け施設、子供を遊ばせながら働けるコワーキングスペース、食品研究所を展開している。

7. 提案

綾瀬市の特徴を活かし、課題を解決していくには、綾瀬市の道の駅を「産業の持続可能性を高め本市経済の活性化を促すための施設」としてとらえる必要がある。

綾瀬市の特徴や事例を踏まえ、物産品の販売や地域の食材を活かしたレストランの他、「独自性」を持ち、「目的地」となり、「市内産業の担い手確保」につながる道の駅を提案する。

(1) 提案のコンセプト

綾瀬市はドライブルート上ではなく、周辺に観光地が無いこと、東名高速道路利用者は近隣の海老名サービスエリアを利用する点から、「道の駅」の利用目的の上位に来る「休憩・トイレ」にはなじまず、一般的な道の駅としての誘客は難しいと考えられる。

このことから、地域の産業に焦点を当てた、地域の産業を体験できる道の駅をコンセプトとする。

(2) 具体的な機能

ア ものづくりミュージアム

綾瀬市の基幹産業である「ものづくり」を知って、学べて、体験できる施設を設置する。同施設内では、前述のあやせ工場スマートナビの情報展示のほか、市内で盛んな金属

加工技術のいろはを学べる展示や綾瀬市の製造業発展の歴史の展示、市内企業で製造されたふるさと納税返礼品などの調理器具やレーシングカーの展示を行う。また、市内企業の求人情報も表示することで、新たな担い手の確保につなげる。また、常時工場見学が可能な企業もあるため、ミュージアム内に工場見学マップを掲示することで、道の駅から町工場への周遊性を高める。

イ ものづくり体験工房

体験工房では、人力プレス機、3D プリンター、小型汎用旋盤、半自動溶接機などを設置し、一般来場者や市内製造業者が利用できる共有のシェア型の体験工房を設置する。

道の駅の予定地の近隣には、大型のホームセンターが複数あるが、一般の方が使えるシェア工房は無いこと、常用雇用 4 名以下で所有する設備が限られた企業が多いことから、シェア工房のニーズはあると考えられる。

また、工房は誰でも見学可能とし、あやせ工匠塾や技能五輪の会場とすることで、職人技を気軽に見学できる「一般の人とものづくりとの接点」としての機能を持たせる。

さらに、土日は、あやせ工場オープンファクトリーの取り組みを基本に、木工や溶接、電子基盤制作体験、金属食器づくりなどの家族向けのワークショップを開催することで、来場者に対し地域産業の PR のほか、ものづくりへの興味を喚起する。

ウ 体験農園

親子ふれあい農業体験、綾瀬市ふれあい農園を踏まえ、農機具の貸出や季節ごとに作物の農産物収穫体験を楽しめる農場を設置する。

野菜作りができる区画があり、農業や家庭菜園に興味のある一般客が集い、農作業を体験できるほか、市内農家による栽培方法の講習などを行う。

収穫した野菜を、同移設内のキッチンで加工し、飲食ができるワークショップ等も開催する。参加者は家族と一緒にとうもろこしやブロッコリーなど市の特産物はもちろん、季節に応じた収穫体験を通じて、農業を体感することができる。

また、限られた生産者しか生産できない綾瀬市のブランドトウモロコシ「菜速あやせコーン」の枝主制度等を導入することで、道の駅の農園ならではの体験を提供する。

エ チャレンジキッチン

綾瀬市は、起業希望者に対し伴走型企業支援事業「綾瀬市創業等支援事業」を実施しているが、鉄道駅や商店街等が無いことから、新たな店舗や飲食店が起業しても、効果的な PR が難しいという課題がある。そこで、市内外に対し効果的な PR ができる道の駅に、起業家の実証実験・既存店舗の出張出店・料理講習会等に活用可能な時間貸しのチャレンジキッチンを設置する。体験農園での収穫物や市内の農畜産物を使った料理教室、農や食を発信するセミナーの会場として活用するほか、シェアキッチンで作られた料理は道の駅内の店舗で販売を行う。シェア型のチャレンジキッチンにより、地域の工業・農業の魅力を食の体として提供できる施設を目指す。

8. おわりに

EV の普及による充電時間の発生、モノ消費からコト消費へのシフト、感染症による観光

スタイルの変化など、人々の行動原理が変化しているなかで、これまでのような消費を中心とした道の駅にとどまるのはもったいない。新たな商品の開発やサービスの提供はもちろんであるが、今ある地域産業の課題解決につながり、持続可能性を高める施設にすべきだと考える。

綾瀬市の道の駅は、地域外の人が訪れるだけでなく、市民や市内産業に光があたり、皆で作り上げる舞台のような道の駅を目指したい。

【引用・参考文献】

・「道の駅案内」/国土交通省

<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/index.html>

・道の駅やちよ

<https://yachiyo-agri.org/>

・まちの駅・道の駅アグリパークゆめすぎと

<http://www.pikaru.co.jp/farm.html#crop>

・道の駅 さかい

<https://www.sakaimachi.jp/ibarakiken-sakaimachi-michinoeki-sakai.html>

・綾瀬市総合計画 2030

https://www.city.ayase.kanagawa.jp/gyoseijoho/seisaku_keikaku/sogokeikaku/1/index.html

・あやせ都市マスタープラン

<https://www.city.ayase.kanagawa.jp/soshiki/toshikeikakuka/toshikeikaku/1/2/3895.html>

・あやせタウンガイド

<https://www.city.ayase.kanagawa.jp/soshiki/hishokohoka/shinoshokai/1/118.html>

・あやせ工場スマートナビ

<https://ayase-manufacturing.jp/>